

2. どこもさわやか潤い都市づくり

(1) 生活環境の満足度

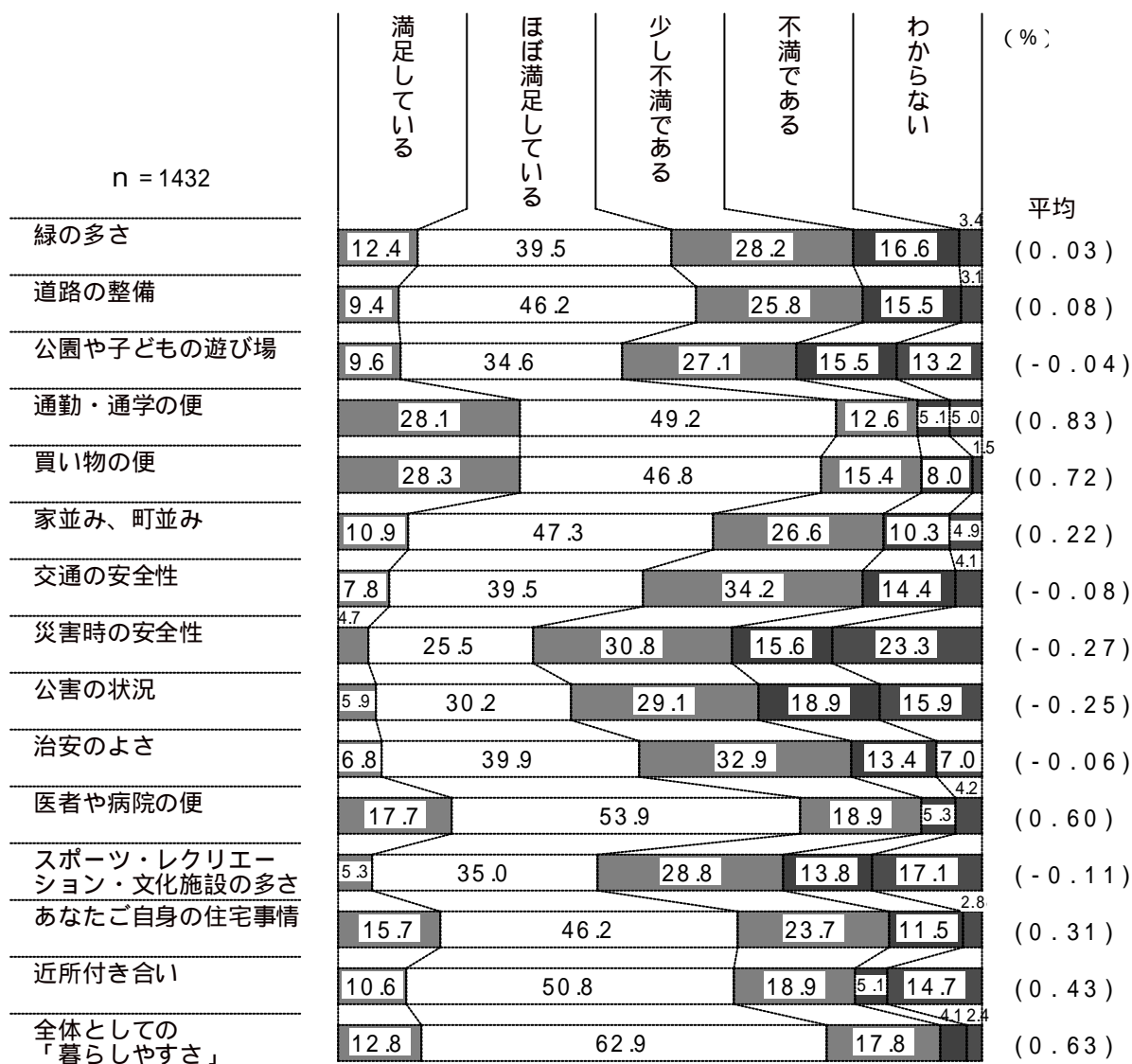
全体としての「暮らしやすさ」に『満足(計)』している人が7割半ば

(全員の方に)

問3. あなたは、お住まいの地域の生活環境について、どの程度満足していますか。

(各々1つ)

図2-1-1



生活環境の満足度を15項目に分けて聞いたところ、総合満足度といえる「全体としての「暮らしやすさ」」については、「満足している」(12.8%)と「ほぼ満足している」(62.9%)を合わせた『満足(計)』(75.7%)が7割半ばを占めている。個別の14項目についてみると、『満足(計)』は、<通勤・通学の便>で8割近くと最も多く、<買い物の便>は7割半ば、<医者や病院の便>も7割を超えている。「少し不満である」と「不満である」を合わせた『不満(計)』は、<公害の状況>と<交通の安全性>で5割近くと多く、<災害時の安全性>と<治安のよさ>でも4割半ばを占めている。(図2-1-1)

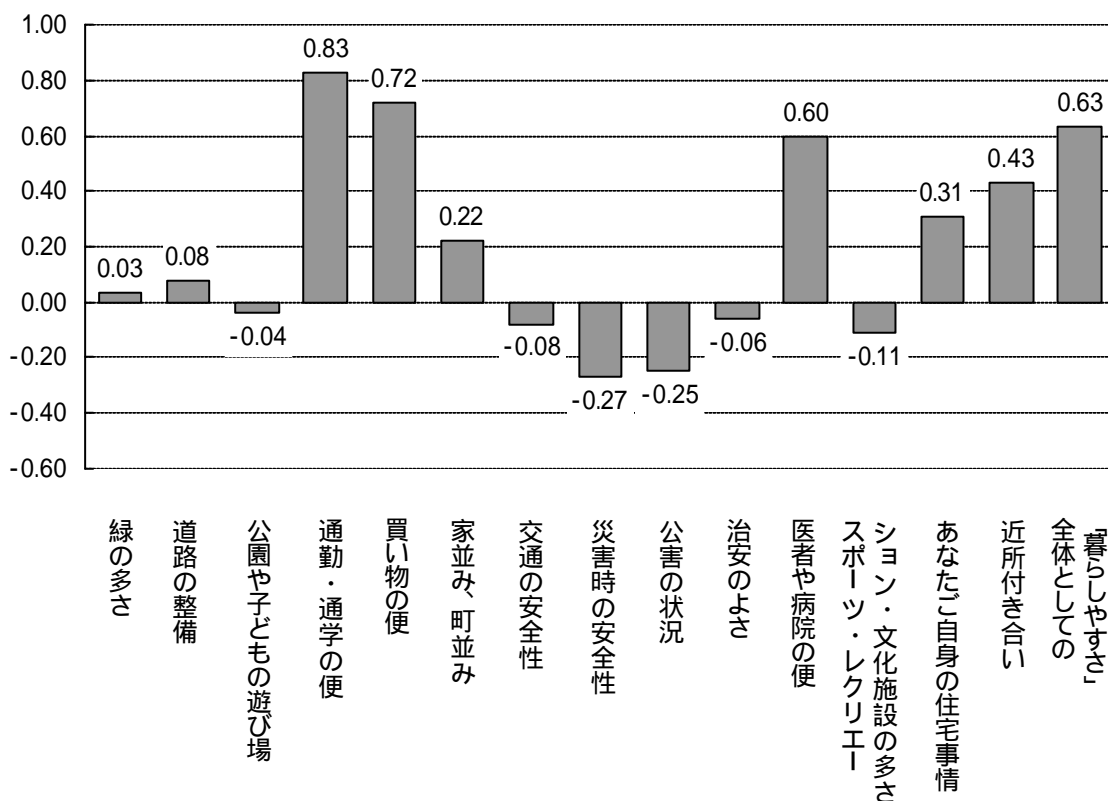
15項目にわたる生活環境評価の比較をやすくするため、それぞれの評価を点数化し、下記の計算式で各項目の評価点を求めた。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「満足している」} \times 2 + \text{「ほぼ満足している」} \times 1 + \text{「少し不満である」} \times (-1) + \text{「不満である」} \times (-2)}{\text{回答者数}}$$

この計算によると、評価点は-2.00から+2.00の間に分布し、0.00が中間値で、+2.00に近いほど評価が高く、-2.00に近いほど評価が低いことになる。また、「わからない」は計算から除外した。

15項目の生活環境評価を評価点で見ると、個別の14項目のうち評価が高いのは、＜通勤・通学の便＞（0.83）＜買い物の便＞（0.72）＜医者や病院の便＞（0.60）＜近所付き合い＞（0.43）＜あなたご自身の住宅事情＞（0.31）などの順である。一方、評価が低いのは、＜災害時の安全性＞（-0.27）＜公害の状況＞（-0.25）＜スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ＞（-0.11）＜交通の安全性＞（-0.08）＜治安のよさ＞（-0.06）などの順になっている。（図2-1-2）

図2-1-2 生活環境の満足度（評価点）

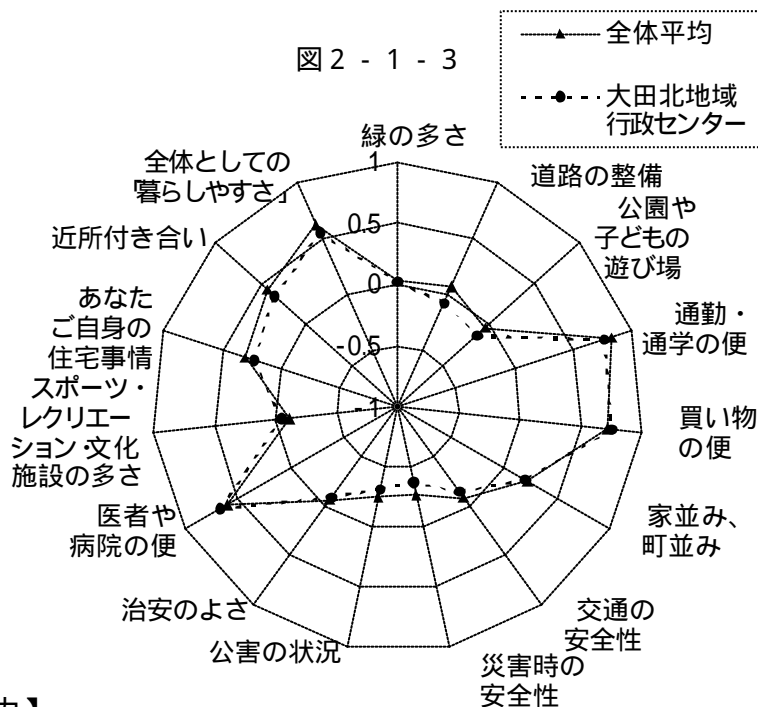


以下、生活環境評価の評価点を地域行政センター管内別にみる。各管内ごとに、全体平均と比べて評価の高いベスト3の項目と、評価の低いワースト3の項目を表に掲げた。

【大田北地域行政センター管内】

	1 位		2 位		3 位
ベスト3	医者や病院の便 0.07	スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ 0.06	買い物の便		0.03
ワースト3	道路の整備 -0.15	災害時の安全性 -0.10	公園や子どもの遊び場		-0.09

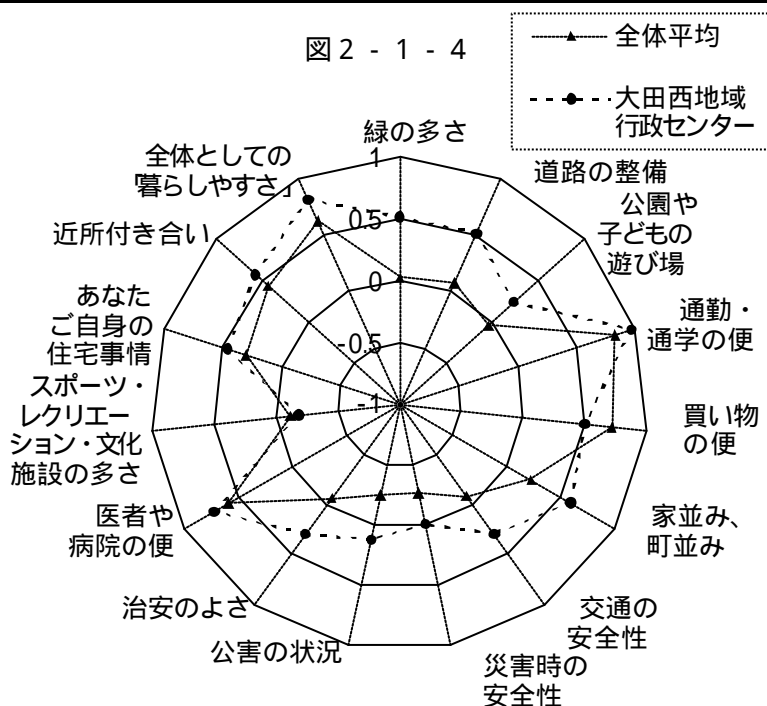
他の管内に比べ、全体平均と大きな差がある項目は少ない。全体平均との比較では、＜道路の整備＞が0.15ポイント、＜災害時の安全性＞が0.10ポイント下回っている。(図2-1-3)



【大田西地域行政センター管内】

	1 位		2 位		3 位
ベスト3	緑の多さ 0.49	道路の整備 0.44	交通の安全性 0.38		
ワースト3	買い物の便 -0.22	スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ -0.07	医者や病院の便 0.13		

全体平均よりも評価の高い項目が多く、特に評価が高いのは＜緑の多さ＞、＜道路の整備＞、＜交通の安全性＞、＜家並み、町並み＞、＜公害の状況＞、＜治安のよさ＞の6項目で、全体平均を0.4~0.5ポイント程度上回った。一方、＜買い物の便＞は全体平均より0.22ポイント下回っている。(図2-1-4)

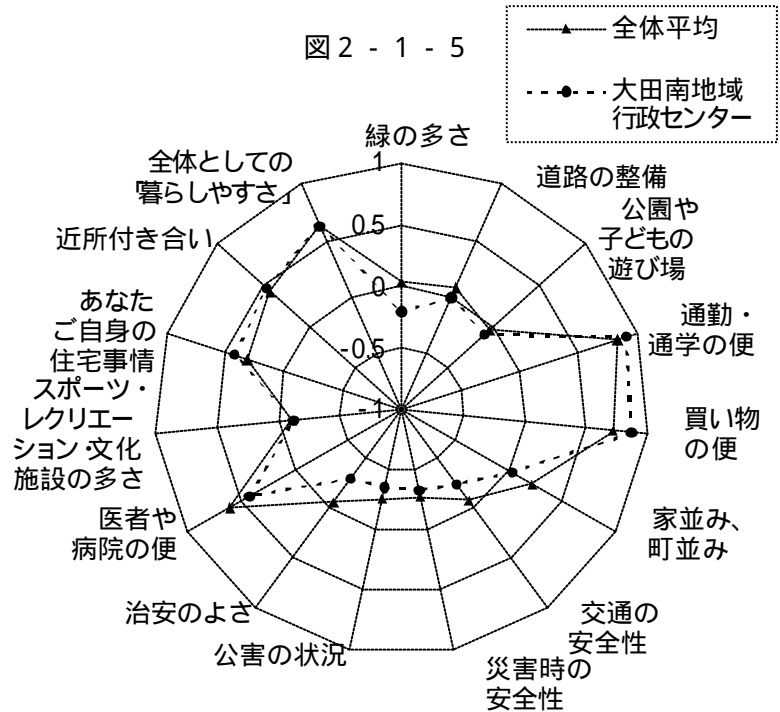


【大田南地域行政センター管内】

	1 位		2 位		3 位	
ベスト3	買い物の便	0.15	あなたご自身の住宅事情	0.11	通勤・通学の便	0.08
ワースト3	治安のよさ	-0.24	緑の多さ	-0.24	家並み、町並み	-0.19

<買い物の便>で0.15ポイント、<あなたご自身の住宅事情>で0.11ポイント、全体平均より上回っている。一方、<治安のよさ>、<緑の多さ>、<家並み、町並み>、<交通の安全性>の4項目では、全体平均を0.2ポイント前後下回っている。

(図2-1-5)

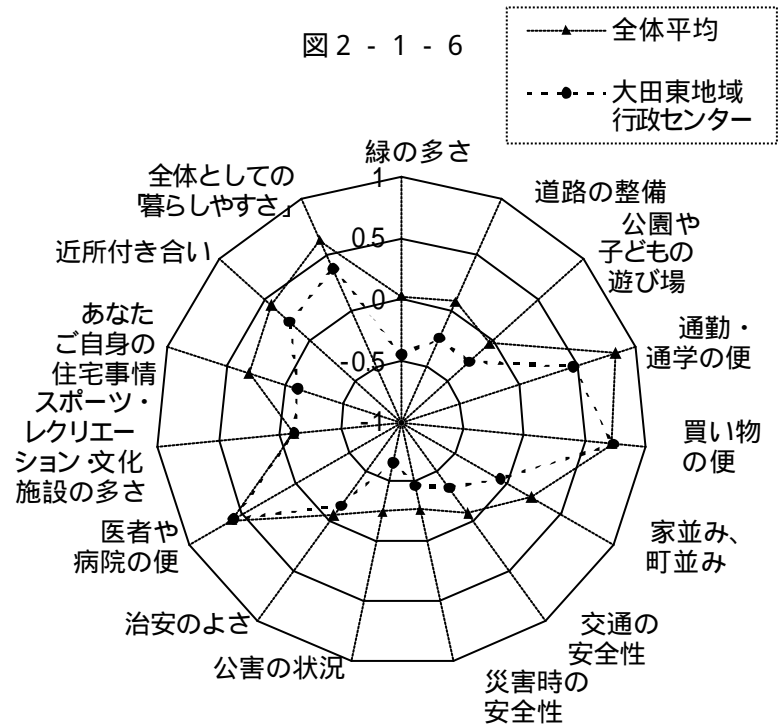


【大田東地域行政センター管内】

	1 位		2 位		3 位	
ベスト3	買い物の便	0.01	スポーツ・レクリエーション文化施設の多さ	-0.01	医者や病院の便	-0.02
ワースト3	緑の多さ	-0.48	あなたご自身の住宅事情	-0.42	公害の状況	-0.41

<緑の多さ>、<あなたご自身の住宅事情>、<公害の状況>の3項目で全体平均を0.4~0.5ポイント下回っている。

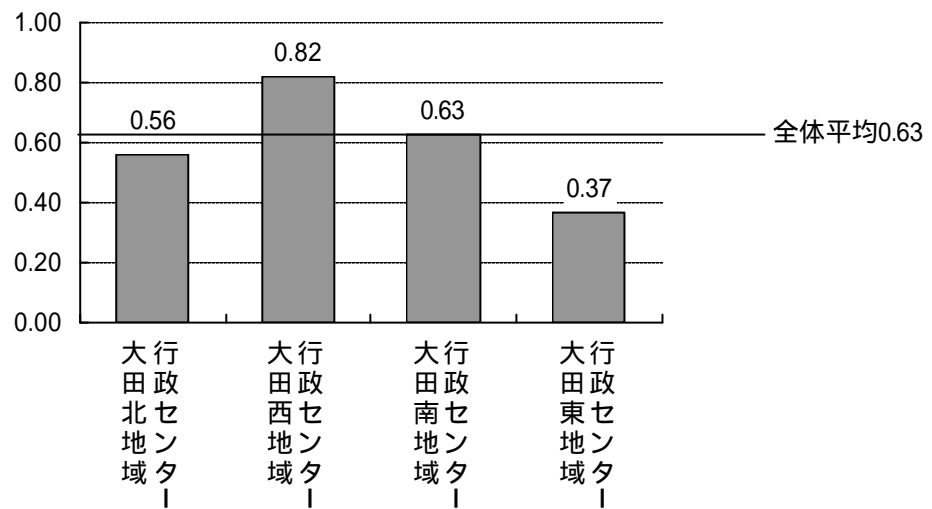
(図2-1-6)



総合満足度を示す「全体としての『暮らしやすさ』」を地域行政センター管内別にみると、大田西地域行政センター管内が全体平均を0.19ポイント上回って満足度が最も高く、次いで、大田南地域行政センター管内、大田北地域行政センター管内、大田東地区行政センター管内の順となっている。

(図2-1-7)

図2-1-7 生活環境の満足度(全体としての「暮らしやすさ」) - 地域行政センター管内別



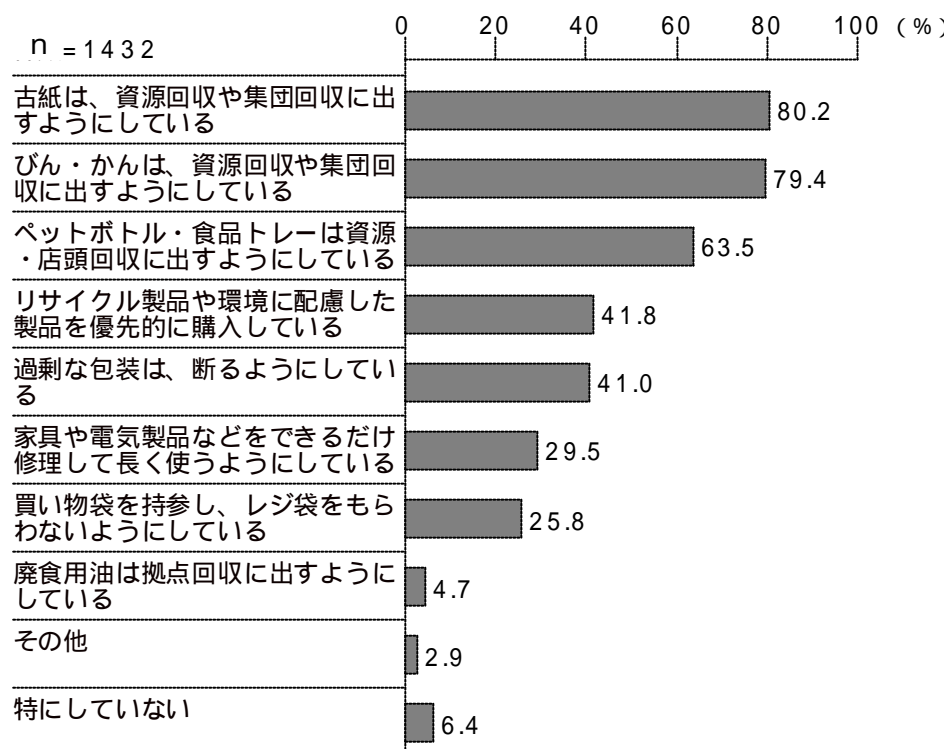
(2) ごみ減量のため工夫していること

「古紙(新聞紙・雑誌等)は、資源回収や集団回収に出すようにしている」と「びん・かんは、資源回収や集団回収に出すようにしている」がともに8割

(全員の方に)

問4. あなたは、ごみ減量のために、普段の生活の中で、どのような工夫をしていますか。
(いくつでも)

図2 - 2 - 1



ごみ減量のため普段の生活でどのような工夫をしているか聞いたところ、「古紙(新聞紙・雑誌等)は、資源回収や集団回収に出すようにしている」(80.2%)と「びん・かんは、資源回収や集団回収に出すようにしている」(79.4%)がともにほぼ8割で多く、次いで「ペットボトル・食品トレーは、資源回収や店頭回収に出すようにしている」(63.5%)「商品購入の際には、リサイクル製品や環境に配慮した製品を優先的に購入している(再生紙使用のトイレトーパー、シャンプーなどの詰め替え用商品等)」(41.8%)「過剰な包装は、断るようになっている」(41.0%)などの順となっている。(図2 - 2 - 1)

地域行政センター管内別にみると、「古紙（新聞紙・雑誌等）は、資源回収や集団回収に出すようにしている」は大田西地域行政センター管内で8割半ばに達して多くなっている。「ペットボトル・食品トレーは、資源回収や店頭回収に出すようにしている」も大田西地域行政センター管内で7割を占めて多く、「スーパーなどへは、買い物袋を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」は大田南地域行政センター管内で3割半ばを占めて多くなっている。（図2 - 2 - 2）

性別にみると、すべての項目で女性が男性より割合が高くなっているが、特に「過剰な包装は、断るようになっている」は18ポイント、「商品購入の際には、リサイクル製品や環境に配慮した製品を優先的に購入している」と「スーパーなどへは、買い物袋を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」は17ポイント、それぞれ女性の方が高くなっている。

性・年代別にみると、「ペットボトル・食品トレーは、資源回収や店頭回収に出すようにしている」は女性60代でほぼ8割と多くなっている。「商品購入の際には、リサイクル製品や環境に配慮した製品を優先的に購入している」は女性の40代と50代の年代で6割近くと多くなっている。「過剰な包装は、断るようになっている」は女性40代で6割を超えて多くなっている。「スーパーなどへは、買い物袋を持参し、レジ袋をもらわないようにしている」は女性60代で4割半ば、女性50代でも4割を超えて多くなっている。「特にしていない」は男性20代で2割を超えている。（図2 - 2 - 3）

図2 - 2 - 2 ごみ減量のため工夫していること - 地域行政センター管内別

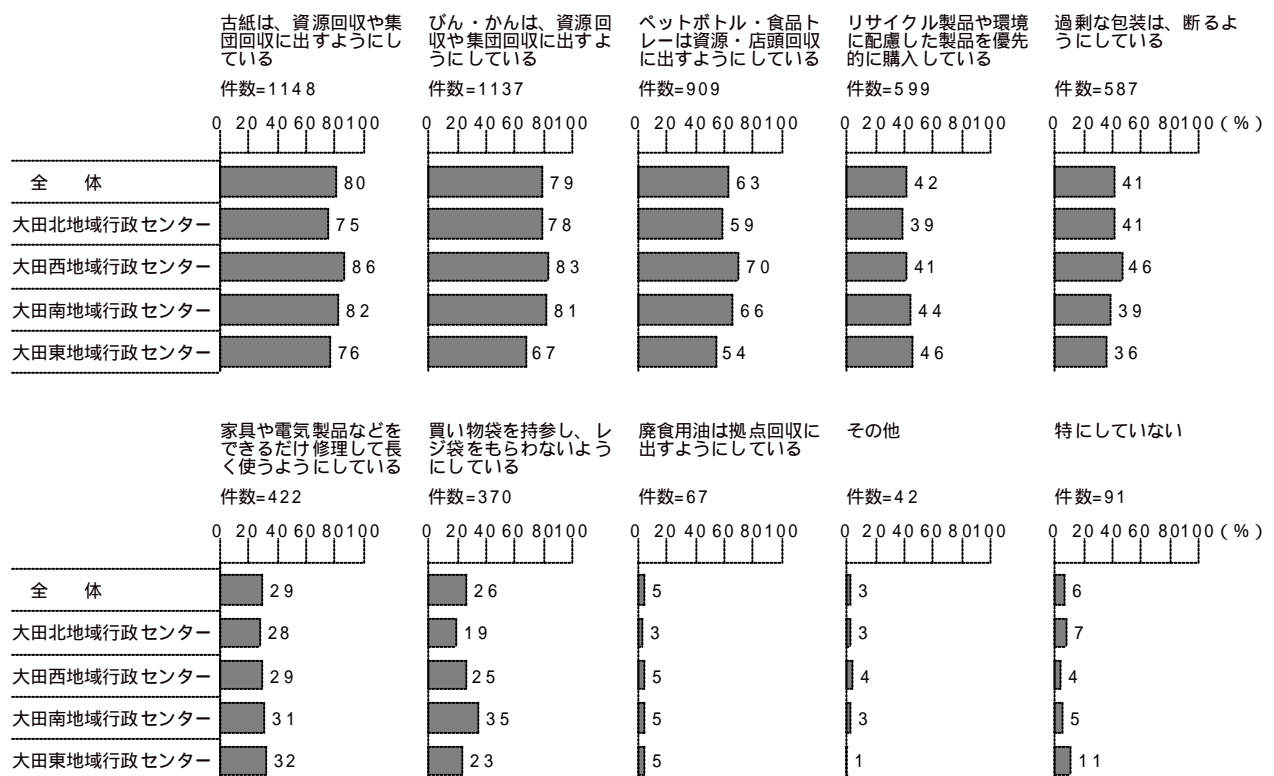
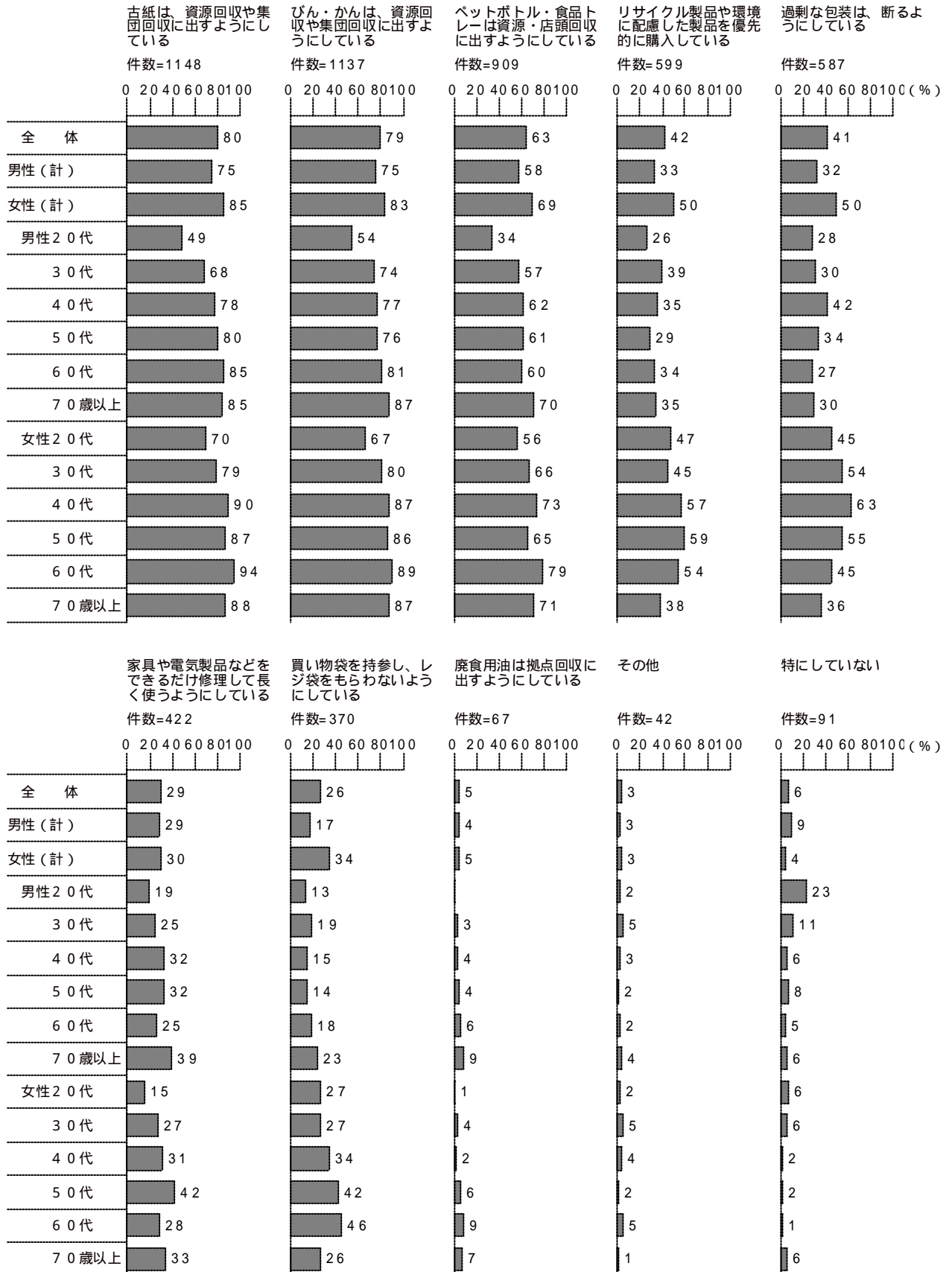
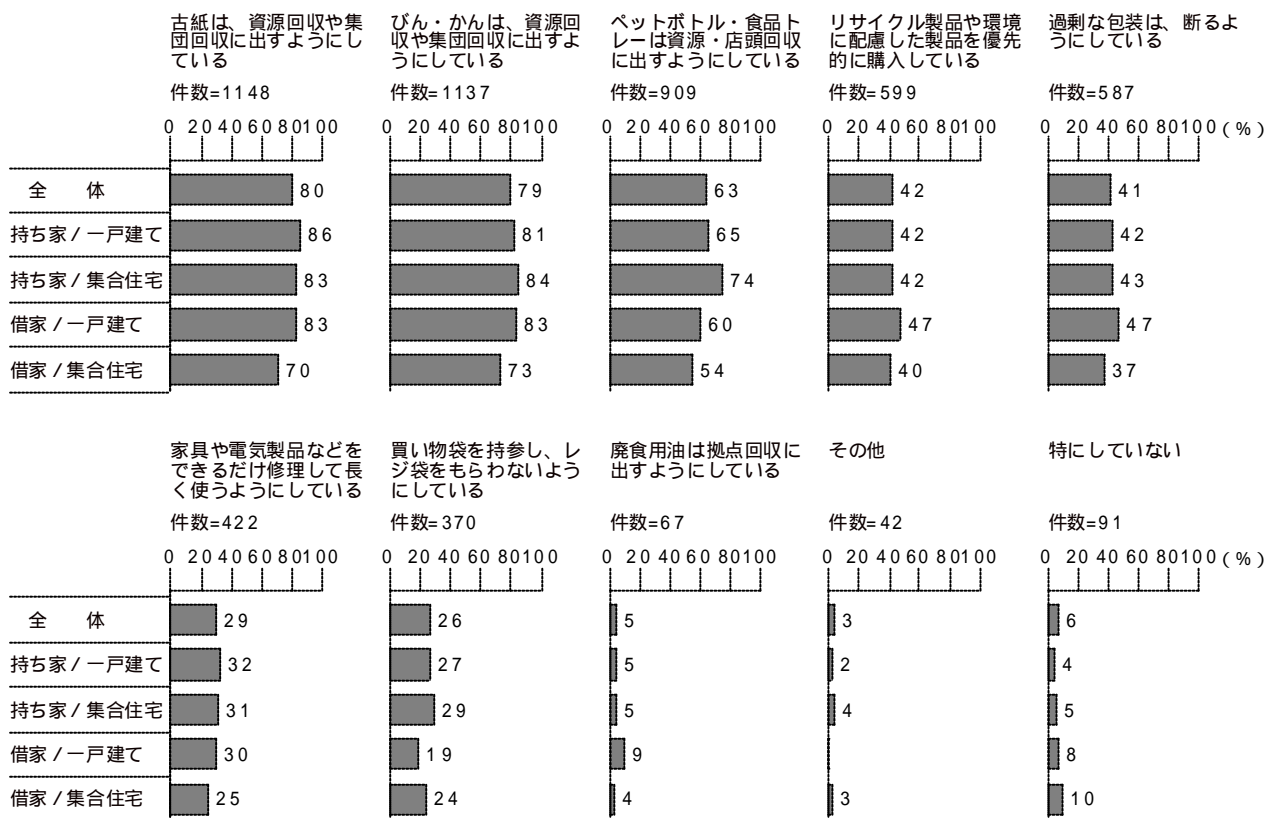


図2-2-3 ごみ減量のため工夫していること - 性・年代別



住居形態別にみると、「ペットボトル・食品トレーは、資源回収や店頭回収に出すようにしている」は集合住宅の持ち家の世帯で7割半ばを占めて多くになっている。(図2-2-4)

図2-2-4 ごみ減量のため工夫していること - 住居形態別



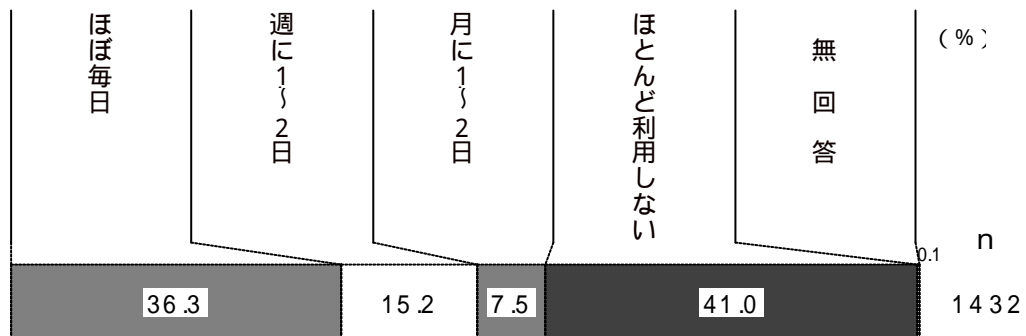
(3) 自転車の利用頻度

ほぼ毎日利用している人は3割半ば

(全員の方に)

問5. あなたは、日頃、自転車をどの程度利用していますか。(1つだけ)

図2-3-1

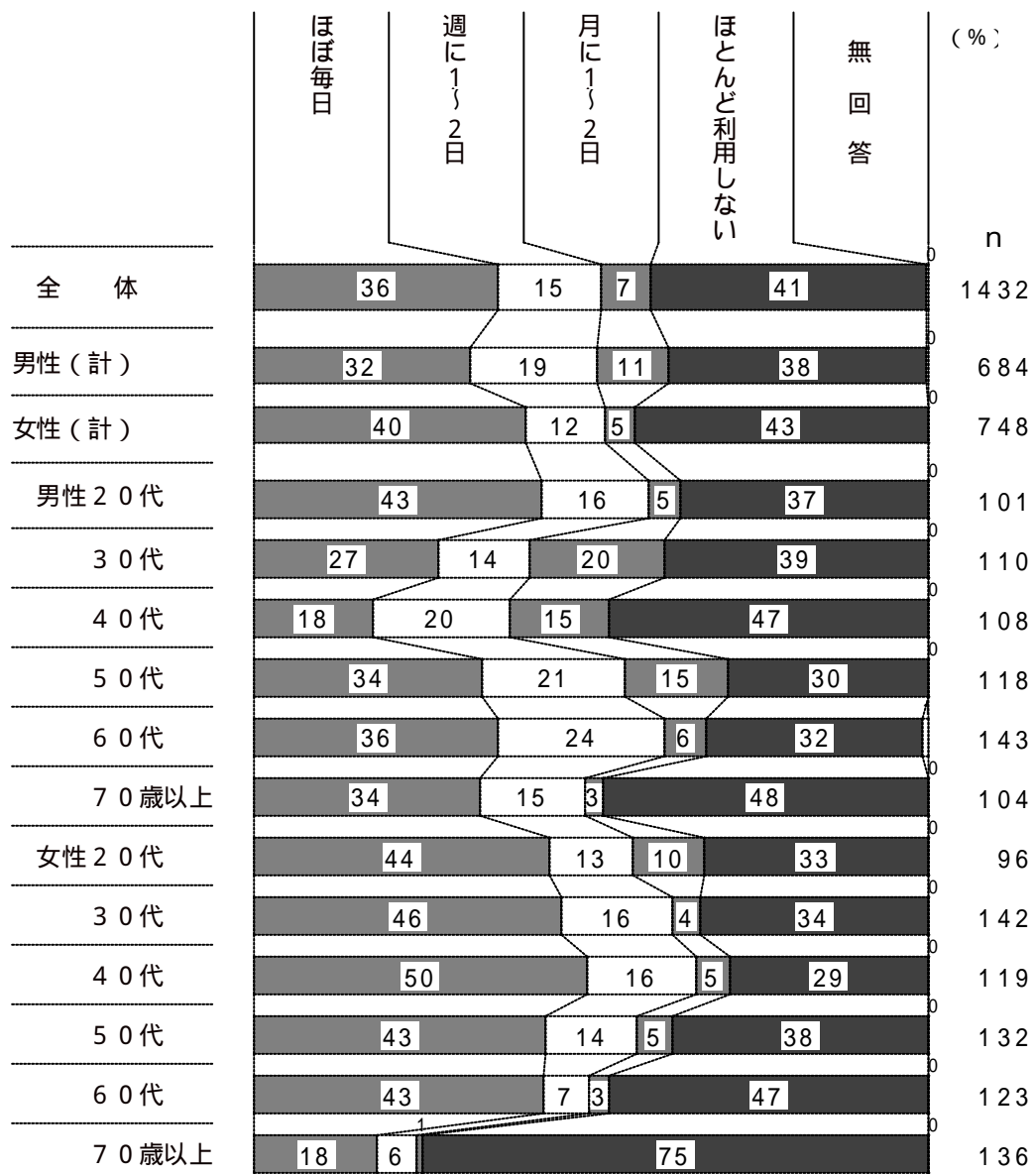


日頃の自転車の利用頻度を聞いたところ、「ほぼ毎日」(36.3%)は3割半ばになっている。これに「週に1~2日」(15.2%)と「月に1~2日」(7.5%)を合わせた、日頃自転車を利用している人(59.0%)はほぼ6割になっている。(図2-3-1)

性別にみると、「ほぼ毎日」は女性の方が8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「ほぼ毎日」は女性の20代から60代の年代と男性20代で、いずれも4割から5割になっている。「ほぼ毎日」と「週に1～2日」、「月に1～2日」を合わせた、日頃自転車を利用している人は、男性の50代から60代の年代と、女性の20代から40代の年代で7割前後を占めている。(図2-3-2)

図2-3-2 自転車の利用頻度 - 性・年代別



(4) 放置自転車をなくすための取り組み

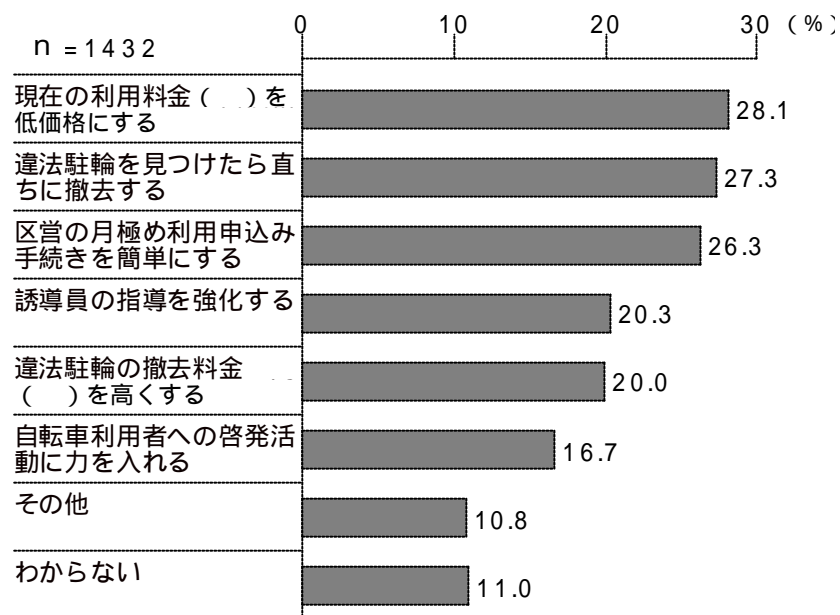
現在の利用料金を低価格にする」、違法駐輪を見つけたら直ちに撤去する」が3割近く

(全員の方に)

問6. 放置自転車対策についてお聞きします。

今、区内の主要な駅から最長5分程度歩けば、ほぼ利用台数分の駐輪場が設けられています。これを前提にした場合、放置自転車をなくすにはどうしたらよいと思いますか。(2つまで)

図2-4-1



利用料金(月極1000円~2000円、1日100円)
撤去料金(自転車3000円、原付5000円)

放置自転車をなくすためにどのような取り組みが必要だと思うか聞いたところ、「現在の利用料金を低価格にする」(28.1%)と「違法駐輪を見つけたら直ちに撤去する」(27.3%)がともに3割近くで多く、次いで「区営の月極め利用申込み手続きを簡単にする」(26.3%)、「誘導員の指導を強化する」(20.3%)、「違法駐輪の撤去料金を高くする」(20.0%)などの順となっている。

(図2-4-1)

地域行政センター管内別にみると、地域による大きな差はみられない。(図2 - 4 - 2)

性別にみると、「違法駐輪の撤去料金を高くする」は男性の方が7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「現在の利用料金を低価格にする」は男性20代で5割近く、女性30代で4割半ばを占めて多くなっている。「区営の月極め利用申込み手続きを簡単にする」は男女とも20代でほぼ4割と多く、「違法駐輪の撤去料金を高くする」は男性の50代と70歳以上の年代でほぼ3割と多くなっている。「自転車利用者への啓発活動に力を入れる」は男性70歳以上で3割と多くなっている。(図2 - 4 - 3)

図2 - 4 - 2 放置自転車をなくすための取り組み - 地域行政センター管内別

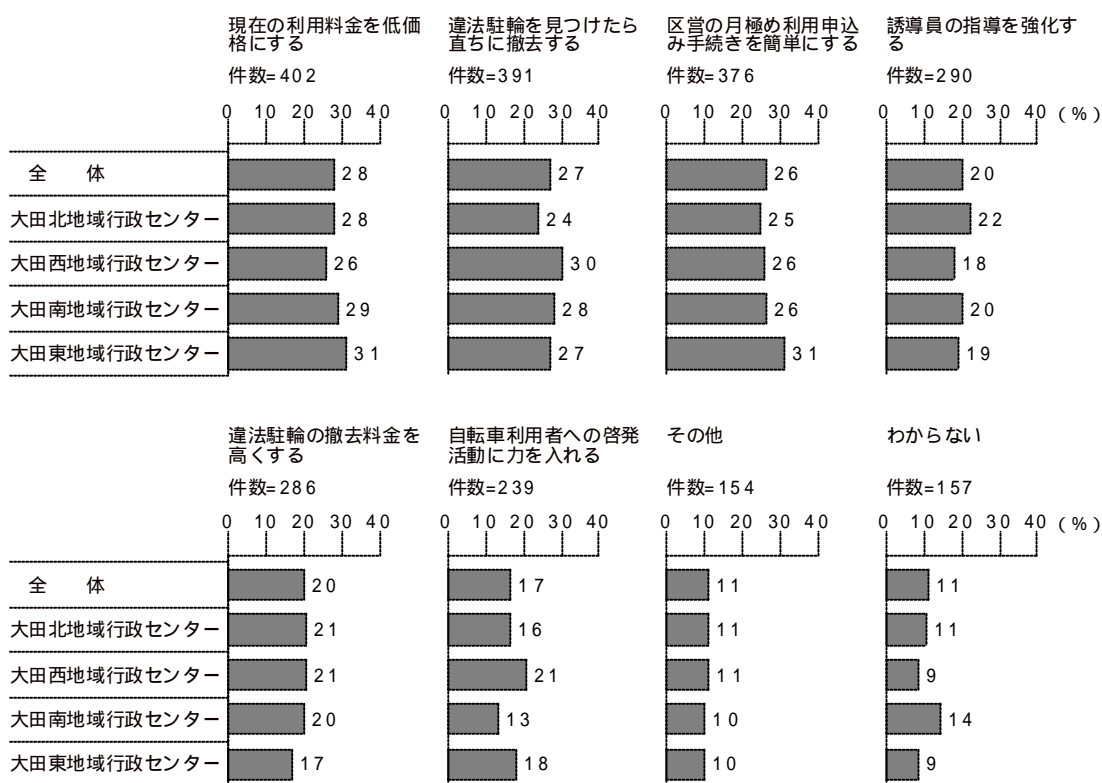
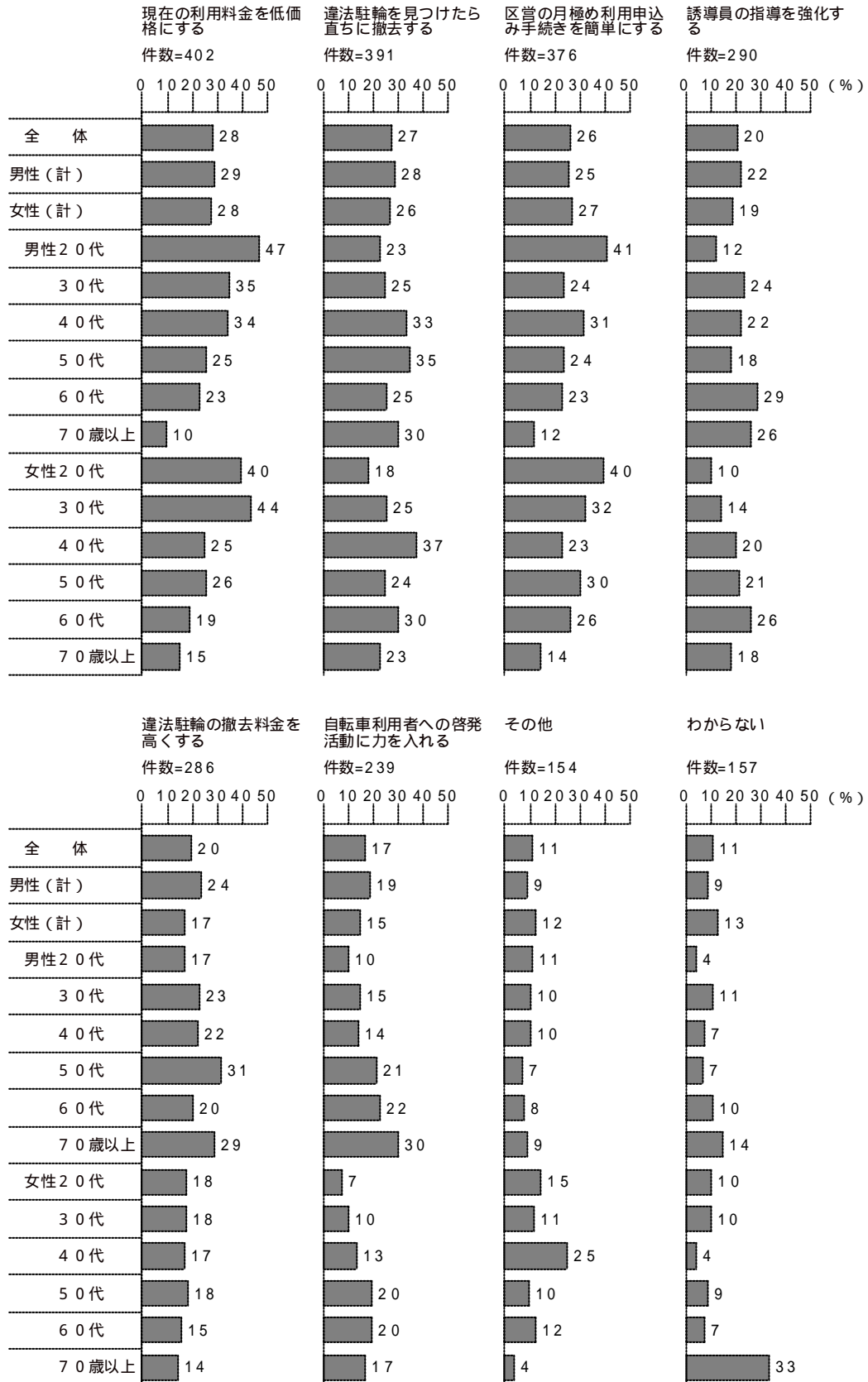
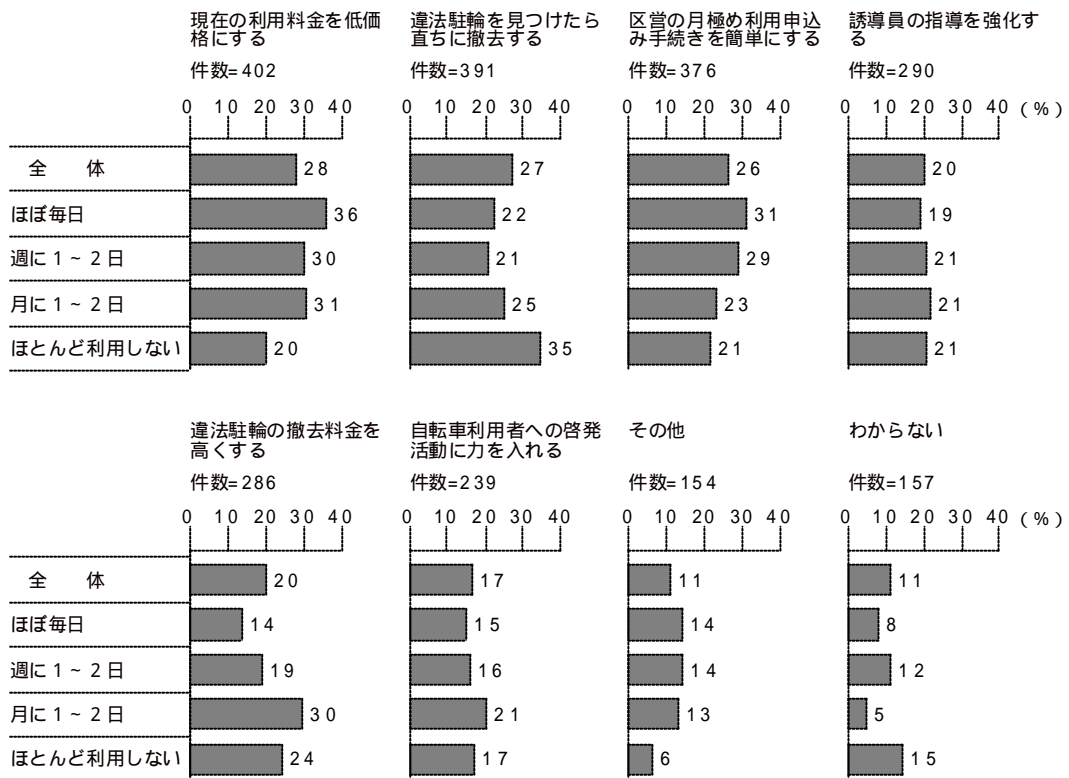


図2 - 4 - 3 放置自転車をなくすための取り組み - 性・年代別



自転車の利用頻度別にみると、ほぼ毎日自転車を利用する人では「現在の利用料金を低価格にする」が3割半ば、「区営の月極め利用申込み手続きを簡単にする」がほぼ3割と多くなっている。一方、ほとんど利用しない人では、「違法駐輪を見つけたら直ちに撤去する」が3割半ばを占めて多くなっている。月に1～2日自転車を利用する人では、「違法駐輪の撤去料金を高くする」が3割を占めて多くなっている。(図2-4-4)

図2-4-4 放置自転車をなくすための取り組み - 自転車の利用頻度別



(5) 駅周辺や繁華街の吸い殻の散乱について

『目につく(計)』が6割半ば

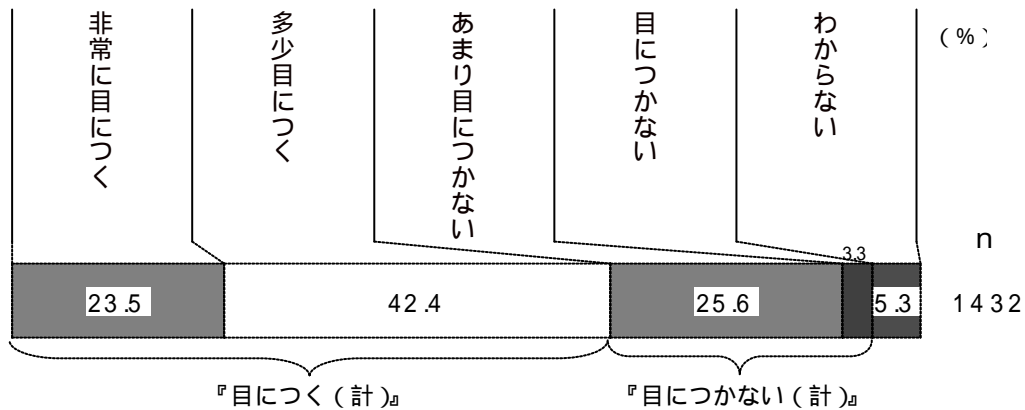
(全員の方に)

問7 大田区では、条例により吸い殻のポイ捨てをなくすための取り組みを進めています。

あなたは、現在の駅周辺や繁華街での吸い殻の散乱についてどう思いますか。

(1つだけ)

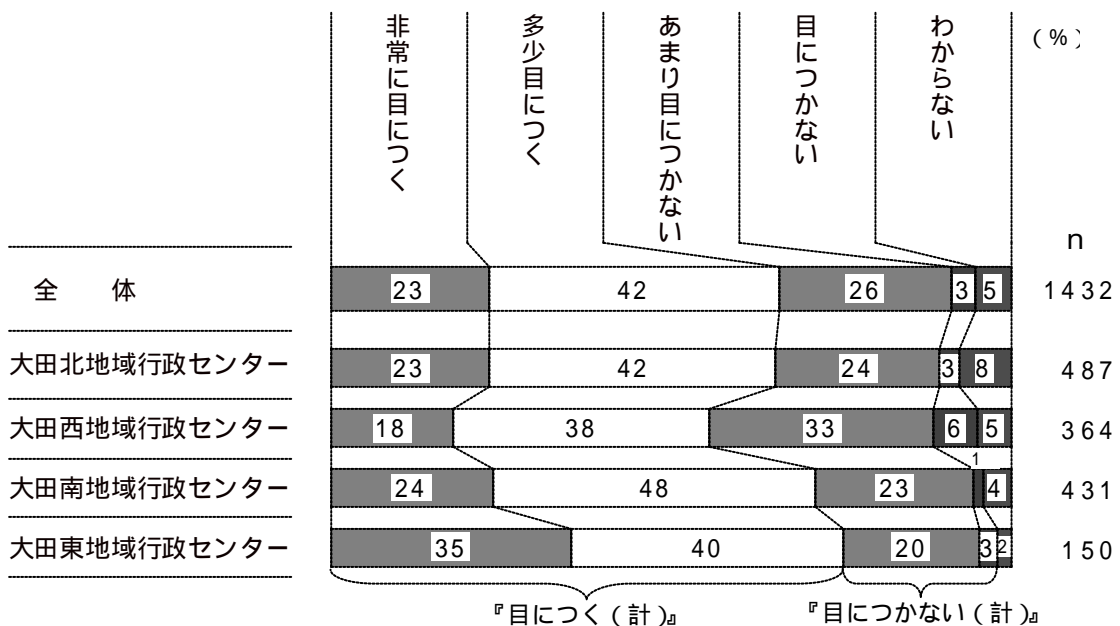
図2-5-1



駅周辺や繁華街の吸い殻の散乱の状況について聞いたところ、「非常に目につく」(23.5%)と「多少目につく」(42.4%)を合わせた『目につく(計)』(65.9%)が6割半ば、「目につかない」(3.3%)と「あまり目につかない」(25.6%)を合わせた『目につかない(計)』(28.9%)が3割近くとなっている。(図2-5-1)

地域行政センター管内別にみると、『目につく(計)』は大田東地域行政センターで7割半ばと多く、大田西地域行政センターでは5割半ばとなっている。(図2-5-2)

図2-5-2 駅周辺や繁華街の吸い殻の散乱について - 地域行政センター管内別



性別にみると、『目につく(計)』は男性の方が6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『目につく(計)』は男性20代で7割半ばと多く、男性の50代と60代の年代でも7割を超えている。(図2-5-3)

図2-5-3 駅周辺や繁華街の吸い殻の散乱について - 性・年代別

